

令和元年度学会等参加報告 2

2019年9月14-16日、青森県弘前市の弘前大学にて、第79回日本昆虫学会大会が開催されました。塘研究室からは、大学院生（M2）の大友真夏さん、鈴木花苗さん、塘が参加し、院生2名はポスター発表を、塘は公開シンポジウムでの講演を行いました。

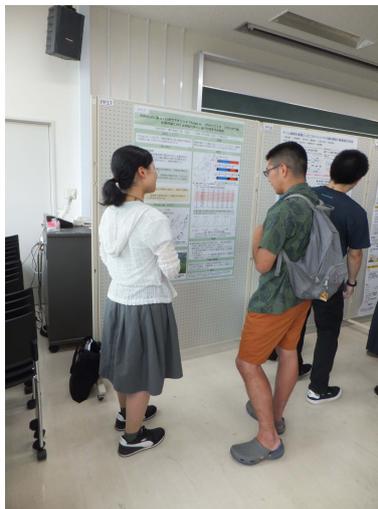
日本昆虫学会自然保護委員会による公開シンポジウムは弘前大学の50周年記念会館みちのくホールにて、「再生可能エネルギー施設による昆虫保全上の新たな問題-共同保全の取り組みを目指して-」と題して開催されました。演者は研究者4名と環境省環境影響評価課の職員1名の5名で、塘は「大規模太陽光発電施設建設に脅かされる福島県のマルコガタノゲンゴウ」とのタイトルで講演しました。座長の一人は福島県農業総合センター浜地域研究所の三田村敏正さんであり（もうお一人は東京大学の矢後勝也先生）、アクアマリンいなわしろカワセミ水族館の平澤桂さんも「福島県における再生可能エネルギー施設建設の現状」とのタイトルで講演されました。シンポジウムは100名以上の聴衆が集まり総合討論も盛り上がりました。

ポスター発表会場は例年よりもスペース的に余裕があり、じっくり議論できる空間を用意して頂きました。大友さんは「ヘビトンボ目幼虫の側方突起の内部形態」、鈴木さんは「SSR解析に基づく山岳性アザミウマ *Thrips* sp.（アザミウマ目：アザミウマ科）の集団間における分岐パターン及び分岐年代の推定」とのタイトルで発表しました。たくさんの方とディスカッションができ、いろいろとアドバイスやサジェスチョンも頂けたようです。

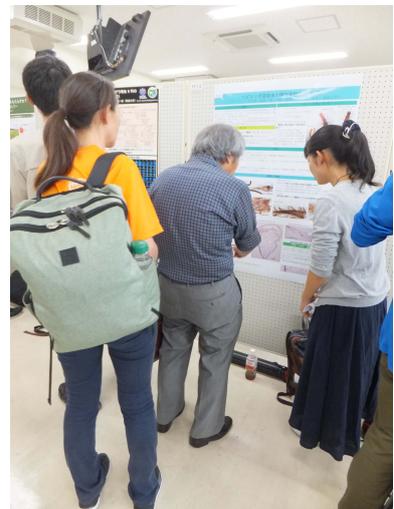
弘前大学には立派な資料館があり、学会会期中は「弘前大学と昆虫学」の企画展も開催されていました。弘前大学で昆虫学を教えた人、学んだ人、青森県の昆虫に関する最近の話題（リンゴ園でのアカシジミ大発生など）などが写真パネルと標本、文献などで紹介されていました。



シンポ会場入口の立て看板



鈴木さんによるポスター発表



大友さんによるポスター発表



公開シンポでは舞台上に講演タイトルの垂れ幕が



弘前大学資料館入口